

7.29

千葉刑包囲糾弾闘争にたかある！

日刊
動労千葉

79.7.31
No. 186

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五八・九（公衆）四三二・七二〇七

再審貫徹・石川氏奪還！
部落解放同盟先頭に二〇〇〇名が決起

「八〇年代をきりひらく動労千葉とともに、7・28国民大集会」の面的大成功の興奮のさめやらぬ七月二十九日、千葉市本町公園で開催された部落解放同盟関東ブロック協議会主催の「狭山再審棄却阻止・石川氏早期奪還関東総決起集会」に動労千葉は五〇名の結集をもって参加した。脅迫状の日付訂正等々、新証拠発見という石川氏無実の決定的事実が明らかになりながら、なおかつ石川氏が部落出身であるということをもって再審棄却策動を行おうとする東京高裁・四谷体制を許すことはできない。われわれは部落差別・人民分断攻撃を激化し、朝鮮・アジア侵略・軍事大国化への道を突き進もうとする政府支配階級の侵略・反動攻撃と対決し真に八〇年代の激動をきりひらく戦闘的労働運動の再生をもちとるべく、三里塚反対同盟、部落解放同盟と固く連帯し闘わなければならない。われわれは労働者の責務にかけて石川氏の呼びかけ（「勝利への第一歩である再審実現化を目指して全力投球で闘ってもらいたい」）にこたえ、狭山再審棄却策動粉碎、石川氏奪還、8・9上告棄却弾劾二周年集会へ全力をあげての取り組みを開始しよう。

獄中一七年の石川さんを 解同千葉集
一刻も早く奪いかえせ！ 連あいさつ

集会は、炎天下、本町公園を埋めつくす二〇〇〇名の参加者による「差別裁判打ち砕こう」の合唱に始まり、解同千葉連関口書記長からの「狭山闘争は再審か、棄却かという重大な時期を迎えている。狭山裁判は差別による権力犯罪であり許せない。大衆の実力行動で石川氏を千葉刑務所から奪いかえそう。地元県連として全力で闘う」との力強い開会宣言がされた。関東ブロック山崎副支部長の主催者あいさつ、野本議長からの基調報告を受けた後、連帯のあいさつとして社会党高橋県議、関東で唯一決起した千葉県労連青婦協を代表して中島議長が行った。反対同盟婦人行動隊長長谷川たけさんは、「昨日の千葉市民ホールを一杯にした動労千葉支援の大集会、そして、今日の会場を埋めつくす闘い、この力をもって千葉刑から一日も早く石川さんを両親のもとにとりもどそう。マスコミはいろいろ報道しているが、反対同盟は一貫として話し合いには応じない。むしろ増々団結を固めている」と不退転の決意を明らかにした。

石川さんガンバレ！
長蛇のデモで千葉刑を包囲！

その後、解同関東ブロック協議会からの決意表明、石川氏の家族からのアピールをうけ、最後に「本日結集した、労農水の力をもって、必ずや狭山闘争勝利！石川完全無罪奪還を勝ちとり、部落解放、労働解放にむけ前進しよう」との集会宣言を全体で確認した。

集会後、部落差別攻撃を一身にうけながら、酷暑のなかで一七年目の不退転の闘いを貫く石川氏



猛暑の中、本町公園を埋めつくす2000の部隊
(千葉市本町公園)

を一日も早く両親のもとにとりもどす決意をこめて千葉刑務所を包囲する長蛇のデモを貫徹した。刑務所のカベを突き破らんばかりの「石川さんガンバレ」「再審貫徹」のシュプレヒコールは何度も何度も繰り返された。

更に「8・9上告棄却
弾劾二周年集会」へ！

この日、国家権力は、4・29集会を上廻る大弾圧体制をもって臨んできたが、解同、反対同盟、労働者一体となった抗議の闘いは、権力・刑務所当局を圧倒したのである。

デモ終了後、動労千葉は独自の総括集会を開き、7・28国民大集会の大結集、大成功が示した動労千葉の闘いの正義性を確信し、動労大改革をさらに一層押し進めることを誓い、あつて解散した。